

環境放射線測定局 非常用自家発電装置更新工事 (上北地域)

図面リスト						
建築工事			電気設備工事			
	表紙・図面リスト	2 2	【小田野沢局】案内図・配置図	1	改修工事特記仕様書（電気設備の部）	
1	改修特記仕様書（その1）	2 3	【小田野沢局】平面図（改修前・改修後）・詳細図	2	【尾岐局外6局】自家用発電装置 仕様書・姿図	
2	改修特記仕様書（その2）	2 4	【老部局】案内図・配置図	3	【開根局】自家用発電装置 仕様書・姿図	
3	改修特記仕様書（その3）	2 5	【老部局】平面図（改修前・改修後）・詳細図	4	【尾岐局】自家用発電装置更新図（改修前・改修後）	
4	改修特記仕様書（その4）	2 6	【近川局】案内図・配置図	5	【平沼局】自家用発電装置更新図（改修前・改修後）	
5	改修特記仕様書（その5）	2 7	【近川局】平面図（改修前・改修後）・詳細図	6	【泊局】自家用発電装置更新図（改修前・改修後）	
6	改修特記仕様書（その6）	2 8	【開根局】案内図・配置図	7	【吹越局】自家用発電装置更新図（改修前・改修後）	
7	改修特記仕様書（その7）	2 9	【開根局】平面図（改修前・改修後）	8	【小田野沢局】自家用発電装置更新図（改修前・改修後）	
8	改修特記仕様書（その8）			9	【老部局】自家用発電装置更新図（改修前・改修後）	
9	改修特記仕様書（その9）			1 0	【近川局】自家用発電装置更新図（改修前・改修後）	
1 0	改修特記仕様書（その1 0）			1 1	【開根局】自家用発電装置更新図（改修前・改修後）	
1 1	改修特記仕様書（その1 1）					
1 2	改修特記仕様書（その1 2）					
1 3	改修特記仕様書（その1 3）					
1 4	【尾岐局】案内図・配置図					
1 5	【尾岐局】平面図（改修前・改修後）・詳細図					
1 6	【平沼局】案内図・配置図					
1 7	【平沼局】平面図（改修前・改修後）・詳細図					
1 8	【泊局】案内図・配置図					
1 9	【泊局】平面図（改修前・改修後）・詳細図					
2 0	【吹越局】案内図・配置図					
2 1	【吹越局】平面図（改修前・改修後）・詳細図					

(株) 青建設計

環境放射線測定局 非常用自家発電装置更新工事（上北地域）

建築工事 特記仕様書

I 工事概要

1. 工事場所

青森県上北郡六所村大字尾敷地内 外

2. 敷地面積

399.939㎡

3. 工事種目

1. 外部改修工事（発電機基礎増設 4局）

4. 工事範囲

尾敷局・平沼局・泊局・越岐局 ~~水田野沢局 一太郎局~~
~~近州局 一朗様局~~

II 建築改修工事仕様

（1）図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版【令和4年制定】」（以下「改修標準仕様書」という。）による。
図面、本特記仕様書及び改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版【令和4年制定】」（以下「標準仕様書」という。）による。

（2）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様書は（／）図、機械設備工事の特記仕様書は（／）図による。

（3）本特記仕様書の表記

1）項目は、○印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用する。
3）特記事項に記載の[. . .]内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
4）特記事項に記載の(. . .)内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
5）G印は、「国等による環境物品等の調達推進に関する法律（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和 2年2月7日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」）においては表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものを示す。

・適用基準

1）図面、本特記仕様書、標準仕様書及び改修標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。
建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）
国土交通省大臣官房官庁営繕部

① 章 各章共通事項

○適用区分

○環境への配慮

○材料の品質等

2）本設計図書における「標準詳細図」とは、次の基準を指す。
建築工事標準詳細図（平成28年版）
国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
・風圧力
風速（V o＝ 34m／s） 地表面粗度区分（Ⅲ）
・積雪荷重
平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域別表（ 十三 ）
(1, 4, 1) [1, 4, 1]

1）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。
①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
③接着剤は、可塑性（フタル酸ジエーサーチル及びフタル酸ジエーエチルへキシル等を含有しない難揮発性の可塑性を除く）が添加されていない材料を使用する。
④①の材料を使用して作られた家具、書架、実装台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

2）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。
①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
③建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
④建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
(1, 4, 2) [1, 4, 2]

1）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
2）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。
3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
4）本工事に使用する材料のうち、5）に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書等）を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。
①品質及び性能に関する試験データを整備していること
②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。
③安定的な供給が可能であること。
④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。
5）製造業者等に関する資料の提出を求める材料
・床型特用鋼製デッキプレート・鉄鋼床下無収縮モルタル・無収縮グラウト材 ・既製調査モルタル(タイル工事用)
・既製調査目地材・ルーフレイン 吸水調整材
・錠前類 ・クローザ類 ・自動扉機構
・閉閉式吊り引戸機構(手動開式) ・重量シャッター
・軽量シャッター ・オーバーヘッドドア ・防水剤
・現場発泡断熱材(特定のフロインによるものを除く)
・フリーアクセスフロア ・可動間仕切り ・移動間仕切り
・トイレブース ・煙突用成形ラインニング材
・天井点検口 ・床点検口 ・グレーチング
・トップライト ・ポリマーセメントモルタル
・鉄釘製ふた

② 章 仮設工事

・騒音・粉じん等の対策

・足場等

〔2. 2. 1〕[表2. 2. 1]

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2)の手すり据置き方式又は3)の手すり先行専用足場方式により行う。

外部足場 ・設置する（設置範囲 ・工事に必要な範囲）
・設置しない
防護シート ・設置する（設置範囲 ・工事に必要な範囲）
・設置しない
内部足場 ・設置する（※脚立、足場板等 ・）
・設置しない
材料、撤去等の運搬方法
種別（・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種）
C種：利用可能なエレベーター（ ）
D種：利用可能な階段（ ）

○既存部分の養生

〔2. 3. 1〕

1）養生方法等
○既存部分 養生方法（・ ※ビニルシート、合板）
・既存家具、既存設備等
養生方法（・ ※ビニルシート等）
○既存ブラインド、カーテン等
養生方法（○ビニルシート等 ・ ）
保管場所（・図示 ・ ）
・固定された備品、机、ロッカー等の移動（・図示 ・ ）
2）既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

・仮設間仕切り

〔2. 2. 3. 1〕[表2. 3. 1]

1）仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ・図示
2）仮設間仕切りの種別と材質等

種別	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填
・A種	・せつこうボード 種類(・) 厚さ(・)mm	・なし ・片面	グラスウール 厚さ()mm
・B種	・合板 材種(・) 厚さ(・)mm ・ ※9.5mm		
※C種	・ ※9mm		
※D種	防火シート		

3）仮設間仕切りに設ける仮設扉の材質等

材質	仕上げ	塗装	設置箇所
・	・	・なし ・片面	・ 箇所 ・ 図示
※木製	※合板張り程度	・片面	・図示

③ 章 防水改修工事

・施工数量調査

〔1, 5, 2, 3〕

調査範囲 ・図示 ・
調査方法 ・図示 ・ 目視及び打診によりひび割れ、浮き、欠損等を調査する。
既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ・図示
調査報告書 提出部数：・2部 ・
・降雨等に
対する養生方法
・既存防水の処理

〔3. 1. 3〕

※改修標準仕様書3.1.3(5)(7)～(9)による。
既存保護層の撤去 ・行う（範囲 ・図示 ・ ）
・行わない
既存防水層の撤去 ・行う（範囲 ・図示 ・ ）
・行わない
既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去
・行う（・M4S ・M4AS1 ・M4C ・M4D1 ・L4X）
・行わない

〔3. 2. 6〕

既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ・図示
POS工法及びFPSI工法（機械的固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非剥離とした立上り部等の処理
※改修標準仕様書3.2.6(4)(7)(g)①～③による
設備機器架台、配管受部、バラベツト、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理
・図示 ※監督職員と協議する

・アスファルト防水

〔3. 3. 2～5〕

屋根保護防水
防水層の種類

工法	種別	施工箇所	断熱材G	絶縁用シート
・P2A	・A-1 ・A-2 ・A-3			・ ※ポリエチレン フィルム厚さ Q.15mm以上
・P1B	・B-1 ・B-2 ・B-3			
・P2A1	・A1-1 ・A1-2 ・A1-3	(種類) JISA9521に基づく 押出法ポリスチレン フォーム断熱材3種BA (スキム層付き)		・ ※フラット ヤーノクロス 70g/㎡程度
・P1B1 ・T1B1	・B1-1 ・B1-2 ・B1-3	(厚さ) ・ 25mm ・ 50mm		

改質アスファルトルーフィングシーの種類の及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ mm以上
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ mm以上
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による
平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ ※水下 80mm以上
床タイル張り ※水下 60mm以上
立上り部の保護方法
・乾式保護材（品質、性能、試験方法は別表による）
窯業系パネル：無石綿の繊維質原材料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの

分類・規格	・窯業系 パネルⅡ類 (寒冷地仕様)	・窯業系 パネルⅡ類 (一般地仕様)	・金属複合板
寸法 (mm)	厚さ (mm) 幅 (mm)		

・れんが押え（・ ※JIS R 1250）
・コンクリート押え
・モルタル押え（屋内）

屋根露出防水
防水層の種類

工法	種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料 種類 使用量	備考
・M4C	・C-1 ・C-2 ・C-3 ・C-4			・ アス ファ ルト ルー フィ ング 類の 製造 所の 仕様 による	※アス ファ ルト ルー フィ ング 類の 製造 所の 仕様 による
・M3D ・POD	・D-1 ・D-2 ・D-3 ・D-4				脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用 ドレン ・設ける ・設けない
・POD1 ・M3D1 ・M4D1	・D1-1 ・D1-2		改修標準 仕様書3.3.2(9) (種類) ・ (厚さ) ・ 25mm		

（工事名）環境放射線測定局（尾敷局ほか7局）
非常用自家発電装置更新工事
改修特記仕様書（その1）
青森県
年 月
1 建

屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

脱気装置・個
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフトレンドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図示

屋内防水

工法	種別	施工箇所	保護層
・P1E	・E-1		・設ける
・P2E	・E-2		・設けない

・E-1の工程3を行う部位
(・ ※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位)

押え金物の材質、形状及び寸法
(・ ※アルミニウム製 L=30×15×2.0mm程度

屋上排水溝
(・ 図示

改質アスファルトシート防水

工法

種別

施工箇所

断熱材 G

仕上塗料

備考

・M4AS	・AS-T1				脱気装置 ・設ける ・設けない
	・AS-T2				
	・AS-J2				
	・AS-T3				
・M3AS	・AS-T4				改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・AS-J1				
	・AS-T3				
	・AS-T4				
・POAS	・AS-J1				改質アスファルトシート ※改質アスファルトシート製造所の仕様による
	・AS-J3				
	・AS-T1				
	・AS-J1				
・M3ASI ・M4ASI ・POASI	・AS1-J1				脱気装置 ・設ける ・設けない
					防湿層 ・設ける ・設けない

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ mm以上
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ mm以上
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ mm以上
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※改質アスファルトシートの製造所の指定
設置数量 個
※改質アスファルトシートの製造所の指定
屋根露出防水絶縁断熱工法の防湿用シート
(・設置する ・設置しない)
押え金物の材質、形状及び寸法
(・アルミニウム製 L=30×15×2.0[mm]程度

防水層の種類

工法

種別

施工箇所

断熱材 G

仕上塗料

備考

・POS ・S4S	・S-F1				脱気装置 ・設ける ・設けない
	・S-F2				
	・S-M1				
	・S-M2				
・S3S	・S-F1	・プレキャストコンクリート下地			脱気装置 ・設ける ・設けない
	・S-F2	・プレキャストコンクリート下地			
	・S-M1				
	・S-M2				
・M4S	・S-M1				脱気装置 ・設ける ・設けない
	・S-M2				
	・S-M3				
	・S1-F1	改修標準仕様書3.4.2(3)(エ)(b)(種類)			
・POS1 ・S3S1 ・S4S1 ・M4S1	・S1-F2	(厚さ) ・25mm ・50mm			改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・S1-M1	改修標準仕様書3.5.2(3)(エ)(a)			
	・S1-M2	(種類) (厚さ) ・25mm ・50mm			

・S-M2の場合で立上りが、接着工法の場合立上り面のシート厚さ(・ ※1.5mm)
・S1-M1及びS1-M2の場合の防湿用フィルム
・設置する ・設置しない

屋内防水

防水層の種類

種別	施工箇所	保護層	
		平場のモルタル塗り	立上り部の保護モルタル塗り
・S-C1	・mm	・床塗り工法	・
		・下地モルタル塗り	・7mm以下

床塗りの場合の床の目地
目地割り(・ ※2㎡程度 最大目地間隔3m程度)
目地の種類(・ ※押し目地)
ルーフィングシートの種類及び厚さ
種類 厚さ mm
※改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による
絶縁シートの材質
・ ※発泡ポリエチレンシート
固定金具の材質及び寸法形状
・ ※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板
脱気装置の種類及び設置数量
種類
設置数量 個
※ルーフィングシートの製造所の仕様による
※ルーフィングシートの製造所の仕様による

接着工法の目地処理
・プレキャストコンクリート下地(・)
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り(種別S-F1、S1-F1の場合)
・行う(・ 図示) ・行わない
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの付け
建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法

工法 種別 施工箇所 仕上塗料 備考

・POX	※X-1 ・X-2	・製造所の仕様による	・製造所の仕様による	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・L4X ※X-2	・X-1 ・X-2	・脱気装置 ・設ける ・設けない	

ウレタンゴム系塗膜防水X-1(絶縁工法)の脱気装置の種類及び設置数量
種類 個
※主材料の製造所の仕様による
※主材料の製造所の仕様による
工法 種別 施工箇所 各工法の数及び各工法の使用量 保護層

・P1Y	※Y-2			・設ける ・設けない
・P2Y	※Y-2			

シーリング改修工法の種類
・シーリング充填工法
・シーリング再充填工法
・拡張シーリング再充填工法
・ブリッジ工法
ボンドブレード一張り ・適用する ・適用しない
エッジング材張り ・適用する ・適用しない

シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による。

施工箇所	シーリング材の種類(記号)

シーリング材の目地寸法
・ 図示
※改修標準仕様書3.7.3(1)(F)～(G)による
シーリング材の接着性試験
※簡易接着性試験 ・引張接着性試験

工法 種別 施工箇所 材種 張掛け幅

・ろく屋根用(・ 縦型 ・横型)	・	・100mm以上 ・50mm以上
	・バルコニー用	・100mm以上 ・50mm以上
・バルコニー中継用	・	・100mm以上 ・50mm以上

とい受金物
材種
形状
・ ※溶融亜鉛めっきを行ったもの
・ ※市販品(とい径100以下)
・ ※25×4.5以上(とい径100を超えるもの)
取付間隔

足金物
材種
形状
取付間隔
・ ※溶融亜鉛めっきを行ったもの
・ ※市販品

多雪地域の軒とい取付間隔 ・適用する ・適用しない

ロックウール保温筋及びビーズ法ポリエチレンフォーム保温筋のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法
※図示
鋼管製といの防露巻き
※改修標準仕様書表3.8.4による
たてどい受金物の取付け ※図示
ルーフトレンドレンの取付け
※図示
※水はけよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する

工法 種別 施工箇所 仕上塗料 備考

・アルミニウム製 笠木	・	・	・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・	・	・	

ウレタンゴム系塗膜防水X-1(絶縁工法)の脱気装置の種類及び設置数量
種類 個
※主材料の製造所の仕様による
※主材料の製造所の仕様による
工法 種別 施工箇所 各工法の数及び各工法の使用量 保護層

・P1Y	※Y-2			・設ける ・設けない
・P2Y	※Y-2			

シーリング改修工法の種類
・シーリング充填工法
・シーリング再充填工法
・拡張シーリング再充填工法
・ブリッジ工法
ボンドブレード一張り ・適用する ・適用しない
エッジング材張り ・適用する ・適用しない

シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による。

施工箇所	シーリング材の種類(記号)

シーリング材の目地寸法
・ 図示
※改修標準仕様書3.7.3(1)(F)～(G)による
シーリング材の接着性試験
※簡易接着性試験 ・引張接着性試験

工法 種別 施工箇所 材種 張掛け幅

・ろく屋根用(・ 縦型 ・横型)	・	・100mm以上 ・50mm以上
	・バルコニー用	・100mm以上 ・50mm以上
・バルコニー中継用	・	・100mm以上 ・50mm以上

とい受金物
材種
形状
・ ※溶融亜鉛めっきを行ったもの
・ ※市販品(とい径100以下)
・ ※25×4.5以上(とい径100を超えるもの)
取付間隔

足金物
材種
形状
取付間隔
・ ※溶融亜鉛めっきを行ったもの
・ ※市販品

多雪地域の軒とい取付間隔 ・適用する ・適用しない

調査範囲 ・外壁改修範囲 ・図示の範囲
調査内容
ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。
モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。
コンクリート表面のひび割れ及びはく落部を壁面に表示する。
張り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。
既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ・図示
調査報告書の部数 ・2部

工法 種別 施工箇所 仕上塗料 備考

・アルミニウム製 笠木	・	・	・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・	・	・	

ウレタンゴム系塗膜防水X-1(絶縁工法)の脱気装置の種類及び設置数量
種類 個
※主材料の製造所の仕様による
※主材料の製造所の仕様による
工法 種別 施工箇所 各工法の数及び各工法の使用量 保護層

・P1Y	※Y-2			・設ける ・設けない
・P2Y	※Y-2			

シーリング改修工法の種類
・シーリング充填工法
・シーリング再充填工法
・拡張シーリング再充填工法
・ブリッジ工法
ボンドブレード一張り ・適用する ・適用しない
エッジング材張り ・適用する ・適用しない

シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による。

施工箇所	シーリング材の種類(記号)

シーリング材の目地寸法
・ 図示
※改修標準仕様書3.7.3(1)(F)～(G)による
シーリング材の接着性試験
※簡易接着性試験 ・引張接着性試験

工法 種別 施工箇所 材種 張掛け幅

・ろく屋根用(・ 縦型 ・横型)	・	・100mm以上 ・50mm以上
	・バルコニー用	・100mm以上 ・50mm以上
・バルコニー中継用	・	・100mm以上 ・50mm以上

とい受金物
材種
形状
・ ※溶融亜鉛めっきを行ったもの
・ ※市販品(とい径100以下)
・ ※25×4.5以上(とい径100を超えるもの)
取付間隔

足金物
材種
形状
取付間隔
・ ※溶融亜鉛めっきを行ったもの
・ ※市販品

多雪地域の軒とい取付間隔 ・適用する ・適用しない

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2)	20.0以上
接着強さ (N/mm2)	標準条件 1.0以上 特殊 湿潤時 0.8以上 条件 低温時 0.5以上
透水性	裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常温において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

（性能）

項目	品質・性能
だれ	下がり量 5mm以内
	表面の状況 ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm2)	6.0以上
圧縮強さ (N/mm2	

・既調合モルタル	[4. 2. 2]		(5) 接着強度（温冷繰返し後）の試験方法（試験体の作製） 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（4）接着強度（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。 （温冷繰返し試験） 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A 6909に規定する「建築用仕上塗材」にの7.11温冷繰返し試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちにー20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。 （温冷繰返し後の接着強度試験方法） 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強度試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm2以上を確保していること） （6）長さ変化率の試験方法 JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスペーション及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。 （7）曲げ強度の試験方法 JIS A6916「建築用下地調整塗材」7.11の曲げ強度試験に準ずる。 試験室の状態：試験室は、温度20±2℃、湿度65±10％とする。	・欠損部改修工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]				モルタル塗替え工法 ・現場調査材料（セメントは改修標準仕様書8.2.5[コンクリートの材料及び調査] (1)による） ・既調合材料（ 既製目地材 ・使用する（形状 ・図示 ・） 仕上厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※図示													
	(品質・性能)				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]																	
	<table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>保水率</td><td>70.0％以上</td></tr><tr><td>単位容積質量</td><td>1.80kg/L以上</td></tr><tr><td>接着強度</td><td>標準時0.60N/mm2以上</td></tr><tr><td>温冷繰り返し後</td><td>0.40N/mm2以上</td></tr><tr><td>長さ変化率</td><td>0.20％以下</td></tr><tr><td>曲げ強度</td><td>4.0N/mm2以上</td></tr></table>				項目	品質・性能	保水率	70.0％以上		単位容積質量	1.80kg/L以上	接着強度	標準時0.60N/mm2以上	温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上	長さ変化率	0.20％以下	曲げ強度	4.0N/mm2以上	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]		
項目	品質・性能																					
保水率	70.0％以上																					
単位容積質量	1.80kg/L以上																					
接着強度	標準時0.60N/mm2以上																					
温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上																					
長さ変化率	0.20％以下																					
曲げ強度	4.0N/mm2以上																					
・既調合モルタル	(試験方法)		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・ひび割れ部改修工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・浮き部改修工法													
	(1) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	(2) 保水率の試験方法 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を金べらで平準に詰込む。 その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにしみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率＝50/平均値×100 （注） 50：リング型わくの内径 mm				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
・既調合モルタル	(3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。		4 章 外壁改修工事（コンクリート打ち仕上げ外壁改修）	・樹脂注入工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニングセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法													
	(4) 接着強度（標準時）の試験方法 適用タイルが「モザイクタイル」の場合（試験体の作製） JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水温しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「150角ユニットタイル（外寸法約300mm×300mm）」を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強度試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強度試験を行う。なお、接着強度の測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上を確保していること） また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。 T：タイルの母材破断 TM：既調合モルタルとタイルの界面破断 M：既調合モルタルの母材破断 MG：既調合モルタルと下地板の界面破断 G：下地板の母材破断				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合（試験体の作製） JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水温しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
・既調合モルタル	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・ひび割れ部改修工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・手塗り改修工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 10～15]													
	(品質・性能)				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	<table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>保水率</td><td>70.0％以上</td></tr><tr><td>単位容積質量</td><td>1.80kg/L以上</td></tr><tr><td>接着強度</td><td>標準時0.60N/mm2以上</td></tr><tr><td>温冷繰り返し後</td><td>0.40N/mm2以上</td></tr><tr><td>長さ変化率</td><td>0.20％以下</td></tr><tr><td>曲げ強度</td><td>4.0N/mm2以上</td></tr></table>				項目	品質・性能	保水率	70.0％以上		単位容積質量	1.80kg/L以上	接着強度	標準時0.60N/mm2以上	温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上	長さ変化率	0.20％以下	曲げ強度	4.0N/mm2以上	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]		
項目	品質・性能																					
保水率	70.0％以上																					
単位容積質量	1.80kg/L以上																					
接着強度	標準時0.60N/mm2以上																					
温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上																					
長さ変化率	0.20％以下																					
曲げ強度	4.0N/mm2以上																					
・既調合モルタル	(試験方法)		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・樹脂注入工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニングセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法													
	(1) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	(2) 保水率の試験方法 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を金べらで平準に詰込む。 その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにしみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率＝50/平均値×100 （注） 50：リング型わくの内径 mm				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
・既調合モルタル	(3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・樹脂注入工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニングセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法													
	(4) 接着強度（標準時）の試験方法 適用タイルが「モザイクタイル」の場合（試験体の作製） JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水温しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「150角ユニットタイル（外寸法約300mm×300mm）」を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強度試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強度試験を行う。なお、接着強度の測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上を確保していること） また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。 T：タイルの母材破断 TM：既調合モルタルとタイルの界面破断 M：既調合モルタルの母材破断 MG：既調合モルタルと下地板の界面破断 G：下地板の母材破断				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合（試験体の作製） JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水温しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
・既調合モルタル	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・ひび割れ部改修工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・手塗り改修工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 10～15]													
	(品質・性能)				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	<table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>保水率</td><td>70.0％以上</td></tr><tr><td>単位容積質量</td><td>1.80kg/L以上</td></tr><tr><td>接着強度</td><td>標準時0.60N/mm2以上</td></tr><tr><td>温冷繰り返し後</td><td>0.40N/mm2以上</td></tr><tr><td>長さ変化率</td><td>0.20％以下</td></tr><tr><td>曲げ強度</td><td>4.0N/mm2以上</td></tr></table>				項目	品質・性能	保水率	70.0％以上		単位容積質量	1.80kg/L以上	接着強度	標準時0.60N/mm2以上	温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上	長さ変化率	0.20％以下	曲げ強度	4.0N/mm2以上	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]		
項目	品質・性能																					
保水率	70.0％以上																					
単位容積質量	1.80kg/L以上																					
接着強度	標準時0.60N/mm2以上																					
温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上																					
長さ変化率	0.20％以下																					
曲げ強度	4.0N/mm2以上																					
・既調合モルタル	(試験方法)		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・樹脂注入工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニングセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法													
	(1) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	(2) 保水率の試験方法 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を金べらで平準に詰込む。 その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにしみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率＝50/平均値×100 （注） 50：リング型わくの内径 mm				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
・既調合モルタル	(3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・樹脂注入工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニングセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法													
	(4) 接着強度（標準時）の試験方法 適用タイルが「モザイクタイル」の場合（試験体の作製） JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水温しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「150角ユニットタイル（外寸法約300mm×300mm）」を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強度試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強度試験を行う。なお、接着強度の測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上を確保していること） また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。 T：タイルの母材破断 TM：既調合モルタルとタイルの界面破断 M：既調合モルタルの母材破断 MG：既調合モルタルと下地板の界面破断 G：下地板の母材破断				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合（試験体の作製） JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水温しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
・既調合モルタル	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・ひび割れ部改修工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・手塗り改修工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 10～15]													
	(品質・性能)				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	<table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>保水率</td><td>70.0％以上</td></tr><tr><td>単位容積質量</td><td>1.80kg/L以上</td></tr><tr><td>接着強度</td><td>標準時0.60N/mm2以上</td></tr><tr><td>温冷繰り返し後</td><td>0.40N/mm2以上</td></tr><tr><td>長さ変化率</td><td>0.20％以下</td></tr><tr><td>曲げ強度</td><td>4.0N/mm2以上</td></tr></table>				項目	品質・性能	保水率	70.0％以上		単位容積質量	1.80kg/L以上	接着強度	標準時0.60N/mm2以上	温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上	長さ変化率	0.20％以下	曲げ強度	4.0N/mm2以上	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]		
項目	品質・性能																					
保水率	70.0％以上																					
単位容積質量	1.80kg/L以上																					
接着強度	標準時0.60N/mm2以上																					
温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上																					
長さ変化率	0.20％以下																					
曲げ強度	4.0N/mm2以上																					
・既調合モルタル	(試験方法)		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・樹脂注入工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニングセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法													
	(1) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	(2) 保水率の試験方法 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を金べらで平準に詰込む。 その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにしみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率＝50/平均値×100 （注） 50：リング型わくの内径 mm				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
・既調合モルタル	(3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・樹脂注入工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニングセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法													
	(4) 接着強度（標準時）の試験方法 適用タイルが「モザイクタイル」の場合（試験体の作製） JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水温しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「150角ユニットタイル（外寸法約300mm×300mm）」を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強度試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強度試験を行う。なお、接着強度の測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上を確保していること） また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。 T：タイルの母材破断 TM：既調合モルタルとタイルの界面破断 M：既調合モルタルの母材破断 MG：既調合モルタルと下地板の界面破断 G：下地板の母材破断				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合（試験体の作製） JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水温しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
・既調合モルタル	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・ひび割れ部改修工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・手塗り改修工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 10～15]													
	(品質・性能)				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	<table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>保水率</td><td>70.0％以上</td></tr><tr><td>単位容積質量</td><td>1.80kg/L以上</td></tr><tr><td>接着強度</td><td>標準時0.60N/mm2以上</td></tr><tr><td>温冷繰り返し後</td><td>0.40N/mm2以上</td></tr><tr><td>長さ変化率</td><td>0.20％以下</td></tr><tr><td>曲げ強度</td><td>4.0N/mm2以上</td></tr></table>				項目	品質・性能	保水率	70.0％以上		単位容積質量	1.80kg/L以上	接着強度	標準時0.60N/mm2以上	温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上	長さ変化率	0.20％以下	曲げ強度	4.0N/mm2以上	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]		
項目	品質・性能																					
保水率	70.0％以上																					
単位容積質量	1.80kg/L以上																					
接着強度	標準時0.60N/mm2以上																					
温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上																					
長さ変化率	0.20％以下																					
曲げ強度	4.0N/mm2以上																					
・既調合モルタル	(試験方法)		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・樹脂注入工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニングセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法													
	(1) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	(2) 保水率の試験方法 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を金べらで平準に詰込む。 その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにしみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率＝50/平均値×100 （注） 50：リング型わくの内径 mm				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
・既調合モルタル	(3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・樹脂注入工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニングセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法													
	(4) 接着強度（標準時）の試験方法 適用タイルが「モザイクタイル」の場合（試験体の作製） JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水温しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「150角ユニットタイル（外寸法約300mm×300mm）」を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強度試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強度試験を行う。なお、接着強度の測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上を確保していること） また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。 T：タイルの母材破断 TM：既調合モルタルとタイルの界面破断 M：既調合モルタルの母材破断 MG：既調合モルタルと下地板の界面破断 G：下地板の母材破断				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合（試験体の作製） JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水温しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法） 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
・既調合モルタル	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・ひび割れ部改修工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・手塗り改修工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 10～15]													
	(品質・性能)				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	<table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>保水率</td><td>70.0％以上</td></tr><tr><td>単位容積質量</td><td>1.80kg/L以上</td></tr><tr><td>接着強度</td><td>標準時0.60N/mm2以上</td></tr><tr><td>温冷繰り返し後</td><td>0.40N/mm2以上</td></tr><tr><td>長さ変化率</td><td>0.20％以下</td></tr><tr><td>曲げ強度</td><td>4.0N/mm2以上</td></tr></table>				項目	品質・性能	保水率	70.0％以上		単位容積質量	1.80kg/L以上	接着強度	標準時0.60N/mm2以上	温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上	長さ変化率	0.20％以下	曲げ強度	4.0N/mm2以上	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]		
項目	品質・性能																					
保水率	70.0％以上																					
単位容積質量	1.80kg/L以上																					
接着強度	標準時0.60N/mm2以上																					
温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上																					
長さ変化率	0.20％以下																					
曲げ強度	4.0N/mm2以上																					
・既調合モルタル	(試験方法)		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・樹脂注入工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニングセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法													
	(1) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
	(2) 保水率の試験方法 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を金べらで平準に詰込む。 その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにしみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率＝50/平均値×100 （注） 50：リング型わくの内径 mm				[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]																	
・既調合モルタル	(3) 単位容積質量の試験方法 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。		4 章 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）	・樹脂注入工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4, 5]				・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニングセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法													
	(4) 接着強度（標準時）の試験方法 適用タイルが「モザイクタイル」の場合（試験体の作製） JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水温しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「150角ユニットタイル（外寸法約300mm×300mm）」を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿置養生																					

	<table><tr><td>初期値</td><td>ディレードアクション性能(秒) ディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。</td><td>開扉90°の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>戸の開鎖位置(中心吊り込み面自由のみに適用)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>±3mm以内</td></tr><tr><td>耐久性能</td><td>繰返し開閉後の閉じモーメント(N・m) 繰返し開閉後の効率(%) 繰返し開閉後の閉じ速度(秒) 繰返し開閉後のバックチェック性能(秒) 繰返し開閉後のディレードアクション性能(秒) 繰り返し開閉後の戸閉鎖位置(mm)</td><td>耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 —</td><td>耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 — — — —</td><td>耐久試験後も上記初期値を満足していること。 — — — — — 耐久試験後±6mm以内</td></tr><tr><td>耐久性の試験回数(繰り返し開閉回数)</td><td>Grade 2</td><td>20万回</td><td>10万回</td><td>30万回</td></tr></table> <p>注1.パラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。 注2.コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。 Grade1を選定する場合は、図示による。</p> <p>(試験方法) 1)性能試験は、JIS A 1510-3(建築用ドア金物の試験方法-第3部:フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ)に規定する試験方法による。 2)試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。</p> <p>・鍵</p> <p>マスターキー ・製作する ・製作しない ・既存のマスターキーに合わせる</p> <p>その他の鍵の製作本数 ※各室3本1組 鍵箱 ・無 ・有</p> <p>・自動ドア開閉装置</p> <p>・引き戸用駆動装置 性能値 ※改修標準仕様書表5.8.5による ・種類・開閉方式() ・耐電圧() ・温度上昇() ・耐久性(サイクル)() ・防錆() ・電源()</p> <p>・多機能トイレ出入口引き戸用駆動装置 性能値 ※改修標準仕様書表5.8.6による ・耐電圧() ・温度上昇() ・耐久性(サイクル)()</p>	初期値	ディレードアクション性能(秒) ディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。	開扉90°の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。	—	—	戸の開鎖位置(中心吊り込み面自由のみに適用)	—	—	—	±3mm以内	耐久性能	繰返し開閉後の閉じモーメント(N・m) 繰返し開閉後の効率(%) 繰返し開閉後の閉じ速度(秒) 繰返し開閉後のバックチェック性能(秒) 繰返し開閉後のディレードアクション性能(秒) 繰り返し開閉後の戸閉鎖位置(mm)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 —	耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 — — — —	耐久試験後も上記初期値を満足していること。 — — — — — 耐久試験後±6mm以内	耐久性の試験回数(繰り返し開閉回数)	Grade 2	20万回	10万回	30万回	<p>・防錆() ・電源()</p> <p>・引き戸用検出装置 性能値 ※改修標準仕様書表5.8.3による ・放射無線周波数電磁界耐性() ・耐電圧() ・防錆() ・防滴() ・電源()</p> <p>戸の開閉方式 引き戸検出装置の種類 凍結防止措置</p> <p>・建具表による 改修標準仕様書表5.8.4による ・建具表による ・適用する ・適用しない</p> <p>性能値等 ※改修標準仕様書表5.9.1による ・手動開き力() ・手動閉じ力() ・閉じ速度の調整() ・制動区間() ・開閉繰返し() ・耐衝撃性()</p> <p>(試験方法) (1)耐久性(開閉繰返し)試験 閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開閉位置から閉鎖位置までの作動を確認できる試験を行う。 同試験に用いる試験体は片引とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。 適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。 (2)耐衝撃性試験 落下高さ170cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。耐衝撃性試験に用いる試験体は片引、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。 (3)気密性能試験 JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。</p> <p>シャッターの種類 ・管理用シャッター 耐風圧強度()N/m² ・外壁用防火シャッター 耐風圧強度()N/m² ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター</p> <p>開閉方式の種類 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 二重シャーン、急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所 ・図示 障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所 ・図示 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構 ・設ける(設置箇所)・図示() 「防火区間に用いる防火設備等の構造方法を定める件」(昭和48年12月28日建設省告示第2563号)に定める基準に適合するもの ※障害物感知装置(自動閉鎖型) ・設けない 管理用シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z12又はF12 開閉方式の種類 ※手動式 ・上部電動式(手動併用) 耐風圧強度()N/m² スラットの材質の種類 ・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z06又はF06 ・JIS G 3322(塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※AZ90</p> <p>・自重シャッター</p>	<p>・オーバーヘッドドア</p> <p>・ガラス</p> <p>スラットの形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形</p> <p>[5.12.2、3]</p> <table><tr><th>セクション材料による区分</th><th>耐風圧性能区分(Pa)</th><th>開閉方式による区分</th><th>収納形式による区分</th><th>ガイドレールの材料</th></tr><tr><td>※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタ イブ</td><td>・125(1250) ・100(1000) ・75(750) ・50(500)</td><td>※バラン ス式 ・チェ ン式 ・電動式</td><td>・スタン ード式 ・ロー ヘッ ド式 ・ハイ リフ ト式 ・パー チカ ル式</td><td>※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステン レス鋼板 ※SUS304、 SUS430J1L、 又はSUS443 J1</td></tr></table> <p>障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所 ・図示</p> <p>[3.7] [5.13.2~4]</p> <p>フロント板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類 ・建具表による</p> <p>型板ガラスの厚さによる種類 ・建具表による</p> <p>網入板ガラス及び網入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の形態及び厚さの呼びによる種類 ・建具表による</p> <p>合わせガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ ・建具表による 形状による種類 ・平面合わせガラス ・曲面合わせガラス 落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類 ・Ⅰ類 ・Ⅱ-Ⅰ類 ・Ⅱ-Ⅱ類 ・Ⅲ類</p> <p>強化ガラス 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称 ・建具表による 破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類 ・Ⅰ類 ・Ⅲ類 熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類、厚さによる種類 ・建具表による 性能による種類 ・Ⅰ種 ・Ⅱ種</p> <p>複層ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ・建具表による 断熱性による区分 ・TⅠ ・TⅡ ・TⅢ ・TⅣ ・TⅤ ・TⅥ 日射取得性、日射遮蔽性による区分 ・ⅠS 乾燥気体の種類 ・空気 ・アルゴン 熱線放射ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ・建具表による 日射熱透過性による区分 ・1種 ・2種 ・3種 耐久性による区分(日射熱遮蔽性による区分が2種の場合) ・A類 ・B類 映像調整 ・行わない ・行う 倍強度ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ・建具表による</p> <p>ガラスの留め材及び溝の大きさ</p> <table><tr><th>建具の種類</th><th>ガラス留め材</th><th>ガラス溝の大きさ(mm)</th></tr><tr><td>アルミニウム製</td><td>○シーリング材 ・ガスケット ・グレイジング ・チャンネル材</td><td>・図示 ○建具の製造所の仕様による</td></tr><tr><td>鋼製及び鋼製軽量</td><td>・シーリング材</td><td>・図示 ・建具の製造所の仕様による</td></tr><tr><td>ステンレス製</td><td>・シーリング材</td><td>・図示 ・建具の製造所の仕様による</td></tr></table>	セクション材料による区分	耐風圧性能区分(Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料	※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタ イブ	・125(1250) ・100(1000) ・75(750) ・50(500)	※バラン ス式 ・チェ ン式 ・電動式	・スタン ード式 ・ロー ヘッ ド式 ・ハイ リフ ト式 ・パー チカ ル式	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステン レス鋼板 ※SUS304、 SUS430J1L、 又はSUS443 J1	建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)	アルミニウム製	○シーリング材 ・ガスケット ・グレイジング ・チャンネル材	・図示 ○建具の製造所の仕様による	鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材	・図示 ・建具の製造所の仕様による	ステンレス製	・シーリング材	・図示 ・建具の製造所の仕様による	<p>・ガラスブロック</p> <p>[5.13.5]</p> <table><tr><th rowspan="2">表面形状</th><th rowspan="2">呼び寸法</th><th rowspan="2">厚さ</th><th rowspan="2">色調 クリ ア 乳 白</th><th colspan="2">目地幅(mm)</th><th rowspan="2">伸縮調整目地位置(mm)</th><th rowspan="2">防火性能</th></tr><tr><th>平積み</th><th>曲面積み</th></tr><tr><td>正 方 形</td><td>・125×125 ・160×160 ・200×200 ・320×320</td><td>80 125 95</td><td>・ ・ ・ ・</td><td>・ ・ ・ ・</td><td>・ ・ ・ ・</td><td>・ ・ ・ ・</td><td>・ ・ ・ ・</td></tr><tr><td>長 方 形</td><td>・250×125 ・320×160</td><td>80 95</td><td>・ ・</td><td>・ ・</td><td>・ ・</td><td>・ ・</td><td>・ ・</td></tr></table> <p>壁用金属枠及び補強材 ・形状 ・図示 力骨 材質 ※ステンレス鋼(SUS304) ・ 寸法 ※径6.5mm ・ 形状 ※はしご形状複筋及び単筋 ・ 化粧目地モルタルの色() 金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製・アルミニウム製 寸法 ・図示 形状 ・図示</p> <p>工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法 目地部の横力骨の納まり ※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示</p> <table><tr><th>種類</th><th>記号</th><th>その他性能等</th></tr><tr><td>・日射調整フィルムG</td><td>・SC-1 ・SC-2</td><td></td></tr><tr><td>・低放射フィルム</td><td>・LE</td><td></td></tr><tr><td>・衝撃破壊対応ガラス 飛散防止フィルム</td><td>・GI-1 ・GI-2</td><td></td></tr><tr><td>・相関変位破壊対応ガラス 飛散防止フィルム</td><td>・GD-1 ・GD-1</td><td></td></tr><tr><td>・ガラス貫通防止フィルム</td><td>・SF</td><td></td></tr></table> <p>品質 JIS A 9759Iによる。</p> <p>6章内装改修工事</p> <p>・改修範囲</p> <p>[6.1.3]</p> <p>既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示 既存天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修 ※既存のまま ○図示</p> <p>[6.2.2]</p> <p>・既存床の撤去及び下地補修</p> <p>ビニル床シート等の撤去 ※仕上材のみ(接着剤とも) ・下地モルタルとも(・図示の範囲 ・撤去範囲全て) 合成樹脂塗床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒し工法 既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外壁改修工事による。 改修後の床の清掃範囲 ※図示</p> <p>[6.3.2]</p> <p>・既存壁の撤去及び下地補修</p> <p>間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ・図示 ※改修標準仕様書4.4.9によるモルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の配置 ※図示)</p> <table><tr><td rowspan="3">青森県</td><td>(工事名) 環境放射線測定局(尾駈局ほか7局) 非常用自家発電装置更新工事</td><td rowspan="3">6 建</td></tr><tr><td>改修特記仕様書(その6)</td></tr><tr><td>年月</td></tr></table>	表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリ ア 乳 白	目地幅(mm)		伸縮調整目地位置(mm)	防火性能	平積み	曲面積み	正 方 形	・125×125 ・160×160 ・200×200 ・320×320	80 125 95	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・	長 方 形	・250×125 ・320×160	80 95	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	種類	記号	その他性能等	・日射調整フィルムG	・SC-1 ・SC-2		・低放射フィルム	・LE		・衝撃破壊対応ガラス 飛散防止フィルム	・GI-1 ・GI-2		・相関変位破壊対応ガラス 飛散防止フィルム	・GD-1 ・GD-1		・ガラス貫通防止フィルム	・SF		青森県	(工事名) 環境放射線測定局(尾駈局ほか7局) 非常用自家発電装置更新工事	6 建	改修特記仕様書(その6)	年月
初期値	ディレードアクション性能(秒) ディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。	開扉90°の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。	—	—																																																																																											
戸の開鎖位置(中心吊り込み面自由のみに適用)	—	—	—	±3mm以内																																																																																											
耐久性能	繰返し開閉後の閉じモーメント(N・m) 繰返し開閉後の効率(%) 繰返し開閉後の閉じ速度(秒) 繰返し開閉後のバックチェック性能(秒) 繰返し開閉後のディレードアクション性能(秒) 繰り返し開閉後の戸閉鎖位置(mm)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 —	耐久試験後も上記初期値を満足していること。 耐久試験後も上記初期値を満足していること。 — — — —	耐久試験後も上記初期値を満足していること。 — — — — — 耐久試験後±6mm以内																																																																																											
耐久性の試験回数(繰り返し開閉回数)	Grade 2	20万回	10万回	30万回																																																																																											
セクション材料による区分	耐風圧性能区分(Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料																																																																																											
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタ イブ	・125(1250) ・100(1000) ・75(750) ・50(500)	※バラン ス式 ・チェ ン式 ・電動式	・スタン ード式 ・ロー ヘッ ド式 ・ハイ リフ ト式 ・パー チカ ル式	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステン レス鋼板 ※SUS304、 SUS430J1L、 又はSUS443 J1																																																																																											
建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)																																																																																													
アルミニウム製	○シーリング材 ・ガスケット ・グレイジング ・チャンネル材	・図示 ○建具の製造所の仕様による																																																																																													
鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材	・図示 ・建具の製造所の仕様による																																																																																													
ステンレス製	・シーリング材	・図示 ・建具の製造所の仕様による																																																																																													
表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリ ア 乳 白	目地幅(mm)		伸縮調整目地位置(mm)	防火性能																																																																																								
				平積み	曲面積み																																																																																										
正 方 形	・125×125 ・160×160 ・200×200 ・320×320	80 125 95	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・																																																																																								
長 方 形	・250×125 ・320×160	80 95	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・																																																																																								
種類	記号	その他性能等																																																																																													
・日射調整フィルムG	・SC-1 ・SC-2																																																																																														
・低放射フィルム	・LE																																																																																														
・衝撃破壊対応ガラス 飛散防止フィルム	・GI-1 ・GI-2																																																																																														
・相関変位破壊対応ガラス 飛散防止フィルム	・GD-1 ・GD-1																																																																																														
・ガラス貫通防止フィルム	・SF																																																																																														
青森県	(工事名) 環境放射線測定局(尾駈局ほか7局) 非常用自家発電装置更新工事	6 建																																																																																													
	改修特記仕様書(その6)																																																																																														
	年月																																																																																														

[illegible]

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材料の適用G	成形方法による区分				吸水率による区分	うわぐすり	役物				色	耐凍害性	耐滑り性
			A	B	I	II			有	無	標準	特性			

備考欄：参照タイルシリーズ

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行 う ・行わない
見本焼き ・行 う ・行わない

既調合モルタル

モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等をすめ工場において所定の割合に配合した材料とする
(品質・性能)

項目		品質・性能
保水率		70.0%以上
単位容積質量		1,80kg/L以上
接着強さ	標準時	0,60N/mm2以上
	温冷繰り返し後	0,40N/mm2以上
長さ変化率		0,20%以下
曲げ強さ		4,0N/mm2以上

(試験方法)

(1) 試料の調製

製造業者の定める、正味質量と標準繰り上がり量より換算して、所定量の試料を繰り上げるのに要する材料と繰り混ぜ水を計算して用意する。

繰り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する繰り混ぜ機を使用し、繰りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間繰り混ぜて試料とする。

(2) 保水率の試験方法

JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を金べらで平滑に詰め込む。

その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にはろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。

保水率＝50/平均値×100
(注) 50：リング型わくの内径 mm

(3) 単位容積質量の試験方法

JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。

(4) 接着強さ（標準時）の試験方法

① 適用タイルが「モザイクタイル」の場合
(試験体の作製)

JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「150角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。

その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。

(試験方法)

JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みをえ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0,6N/mm2以上を確保していること）
また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選

び明記する。

T : タイルの母材破断
TM : 既調合モルタルとタイルの界面破断
M : 既調合モルタルの母材破断
MG : 既調合モルタルと下地板の界面破断
G : 下地板の母材破断

② 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合
(試験体の作製)

JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル708mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。

その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。

(試験方法)

「モザイクタイル」の場合と同様に行う。

(5) 接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法

(試験体の作製)

「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（4）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。

(温冷繰返し試験)

「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A 6909に規定する「建築用仕上塗材」に7.11温冷繰返し試験に準じて行う。

試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちにー20±2℃の恒温槽中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温槽中で3時間加温し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。

(温冷繰返し後の接着強さ試験方法)

「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0,4N/mm2以上を確保していること）

(6) 長さ変化率の試験方法

JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率を準ずる。

(7) 曲げ強さの試験方法

JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11の曲げ強さ試験に準ずる。

試験室の状態： 試験室は、温度20±2℃、湿度65±10%とする。

既調合目地材

(品質・性能)

項目	品質・性能
保水率	30.0%以上
長さ変化率	0,2%以下（収縮）
吸水率	50g以下
単位容積質量	1,80kg/L以上

(試験方法)

(1) 試験の条件

試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。

(2) 試料の調整

正味質量と標準繰り上がり量より、1.0～1.2Lの試料を繰り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の繰り混ぜ水を計算して用意する。

繰り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11.2に規定する繰り混ぜ機を使用し、繰りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し3分間繰り混ぜて試料とする。

(3) 保水性（ろ紙法）

JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm、横200mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径18.5cm）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（2）で繰り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にはろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて1mmまで測定する。

試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水

率を求める。

保水率（%）＝50/平均値×100
注）50：リング型わくの内径（mm）

(4) 単位容積質量

（2）で繰り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に規定する方法で求める。

(5) 長さ変化率

（2）で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.8長さ変化率試験に従って行う。

(6) 吸水率

（3）で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定する方法で24時間の吸水率を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

・有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張りタイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材料の適用G	成形方法による区分				吸水率による区分	うわぐすり	役物				色	耐凍害性	耐滑り性
			A	B	I	II			施ゆう	有	無	標準	特性	有	無

備考欄：参照タイルシリーズ

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行 う ・行わない
見本焼き ・行 う ・行かない

内装タイル接着剤張りを使用する有機接着剤系のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・

[6.17.2. 3]

種類及び品質 ・セッコウ系 ・セメント系
標準塗厚（mm）

・セルフ
レベリング材
塗り

7 章

塗装
改修工事

・下地調整

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・

[7.1.3]

防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。
（箇所： ）

[7.2.1～7]

塗替えR・B板の場合の既存塗膜の除去範囲
※塗替え面積の30% ・図示 ・

既存禁止め塗料の鉛含有量調査

・行 う （箇所） ・行わない
下地調整

下地面の種類	下地調整の種別		ひび割れ部の補修
	塗替え	新規	
木部	※RB種 ・	・RA種 ・RB種	—
鉄鋼面	※RB種 ・	・RA種	—
亜鉛めっき鋼面	※RB種 ・	・RA種	—
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具等）	※RB種 ・	・RC種	—
モルタル面、プラスタ一面	※RB種 ・	・RA種 ・RB種	・行 う ・行わない
コンクリート面（DP以外）、ALCパネル面	※RB種 ・	・RA種	・行 う ・行わない
押出成形セメント板	・RA種 ・RB種 ・RC種	・RA種 ・RB種	・行 う ・行わない
コンクリート面（DP）	・RB種 ・RC種	・RA種	・行 う ・行わない
セッコウボード面及びその他ボード面	※RB種 ・	・RA種 ・RB種	—

・錆止め塗料塗り

錆止め塗料塗りの種別				(7.3.2. 3)	
塗装面	塗料の種類	工程の種別			
鉄鋼面	EP-G以外	塗替え	A種	※C種 ・	
		新規見え掛り	A種	※A種 ・	
		新規見え隠れ	A種	※B種 ・	
	EP-G	塗替え	※B種 ・A種	※C種 ・	
		新規見え掛り	※B種 ・A種	※A種 ・	
		新規見え隠れ	※B種 ・A種	※B種 ・	
亜鉛めっき鋼面	EP-G以外	塗替え	※B種 ・B種	※C種 ・	
		新規鋼製建具等	C種	※A種 ・	
	EP-G	塗替え	※A種 ・B種	※C種 ・	
		新規鋼製建具等	C種	※A種 ・	

・塗装

(7.4.2～7.14.2)

塗装の種類	塗装面	工程	
		塗替え	新規
・合成樹脂 調合ペイント 塗り (SOP) 塗料の種類 ※1種・2種	木部屋外	※B種 ・	※A種 ・
	木部屋内	※B種 ・	※B種 ・
	鉄鋼面	※B種 ・	※B種 ・A種
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※A種 ・	※B種 ・
・耐候性塗 料塗り (DP)	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）	※B種 ・	※B種 ・
	鉄鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・	・A-1種 ・B-1種 ・C-1種
・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り（EP-G）	コンクリート面等	※ B 種	・A種 ・B種
	屋内の木部	※ B 種	※A種 ・
	屋内の鉄鋼面	※ B 種	・A種 ・B種
	屋内の亜鉛めっき鋼面	※ B 種	・A種 ・B種
・合成樹脂エマルジョンペイント塗り（EP）	鉄鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・	・A-1種 ・B-1種 ・C-1種
	コンクリート面等	※ B 種	・A種 ・B種
・合成樹脂エマルジョン模様 塗料塗り（EP-T）	鉄鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・	・A-1種 ・B-1種 ・C-1種
	コンクリート面等	※ B 種	・A種 ・B種
・ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）	鉄鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・	・A-1種 ・B-1種 ・C-1種
	コンクリート面等	※ B 種	・A種 ・B種
・オイルステイン塗り（OS） 塗料（ ・油性 ・水性）	鉄鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・	・A-1種 ・B-1種 ・C-1種
	コンクリート面等	※ B 種	・A種 ・B種
・木材保護塗料塗り（WP）	鉄鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り等級（ ）級	・	A種
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・	・A-1種 ・B-1種 ・C-1種
	コンクリート面等	※ B 種	・A種 ・B種

（工事名）環境放射線測定局（尾鷲局ほか7局）
非常用自家発電装置更新工事

改修特記仕様書（その9）

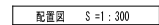
青森県

年月

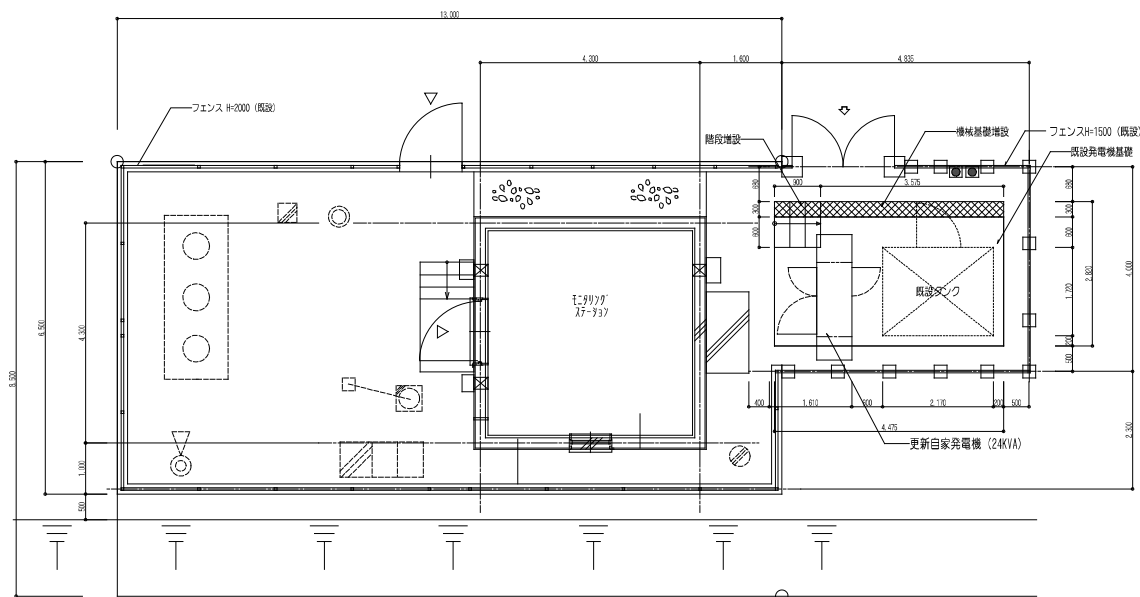
9 建

[illegible]

○砂利地業	材料	[8. 2. 15] [8. 28. 4]							
	○再生クラッシャーラン G ・切込砂利又は切込砕石 厚さ及び適用範囲								
	厚さ	適用箇所							
	※60	・基礎スラブ下・基礎梁下・土間コンクリート下 ・土に接するスラブ下							
○150	○機械基礎下								
○捨コンクリート地業	厚さ及び適用範囲	[8. 2. 15] [8. 28. 4]							
	厚さ	適用箇所							
	※50	・基礎スラブ下・基礎梁下・土に接するスラブ下 ○機械基礎下							
	・	・							
・床下防湿層	材料	(4. 6. 2)							
	・	※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上							
	施工範囲	(4. 6. 5)							
	・図示 ()								
9章 環境配慮改修工事	・石綿含有建材の除去工事	[9. 1. 1、3～5]							
	施工調査 ※石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等により石綿を含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査する。 調査範囲 (・施工範囲全て・図示 ()) 貸与資料 () ・分析による石綿含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンスオフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト 分析方法								
	材料名	定性分析方法 JIS A 1481-1 又は JIS A 1481-2	定量分析方法 JIS A 1481-3 又は JIS A 1481-4						
	・	・ 箇所	・ 箇所						
	・	・ 箇所	・ 箇所						
	・	・ 箇所	・ 箇所						
	サンプル数	1箇所あたり3サンプル							
	採取箇所	・図示 ()							
	・石綿粉じん濃度測定 測定時期、場所及び測定点								
	適用名称	測定時期	測定場所	測定箇所数 (各施工箇所ごと)					
・測定1	処理作業前	処理作業室内	・計点						
・測定2		調査対象室外部の付近	・計点						
・測定3	処理作業中	処理作業室内	・計点						
・測定4		セキュリティゾーン入口	・計点						
・測定5	処理作業中	集じん・排気装置の排出口(処理作業室外の場合)	出口吹出し風速 1m/sec以下の位置 ・計点						
・測定6		処理作業室外 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・計点						
・測定7	処理作業後 (閉養生中)	処理作業室内	・計点						
・測定8	処理作業後 シート撤去後 1週間以降	処理作業室内	・計点						
・測定9		調査対象室外部の付近	・計点						
測定方法	・自動測定器による測定	測定方法							
測定名称	測定方法								
・測定4 ・測定5	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定								
・断熱 アスファルト 防水改修工事	[9. 2. 2～3]								
・外断熱 改修工事 G	[9. 3. 2～4]								
・ガラス 改修工事	[9. 4. 2、3]								
複層ガラス	材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ・建具表による 断熱性による区分 ・T1・T2・T3・T4・T5・T6 日射取得性、日射遮蔽性による区分 ・G・S 乾燥気体の種類 ・空気・アルゴン								
上記以外は、改修特記仕様書5章 建具改修工事による									
[9. 5. 2～4]									
フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外・ ・断熱材打込み工法 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材の種類 ・厚さ(mm) ・施工場所 ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ・A種1・A種1A・ 吹付け厚さ(mm) ・25・30・ 施工箇所 ・図示 ()									
・現場発泡断熱材 (品質・性能)									
<table><tr><th>項目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>難燃性</td><td>下記のいずれかによっていること (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカロリー試験)に適合していること。</td></tr><tr><td>発熱性</td><td>準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分として次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が9MJ/m²以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する電気及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m²を超えないこと。</td></tr></table>				項目	品質・性能	難燃性	下記のいずれかによっていること (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカロリー試験)に適合していること。	発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分として次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が9MJ/m ² 以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する電気及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m ² を超えないこと。
項目	品質・性能								
難燃性	下記のいずれかによっていること (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカロリー試験)に適合していること。								
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分として次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が9MJ/m ² 以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する電気及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m ² を超えないこと。								
(試験方法) (1) 原液試験(原液粘土試験) JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」に規定する6.1による。 (2) 発泡品試験 1) 原料の作成は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。 2) 試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験片の作成はJIS A 9526の6.2.3による。 3) 試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。 (3) 圧縮強さ試験 JIS A 9526の6.2.5による。 (4) 熱伝導率試験 JIS A 9526の6.2.6による。 (5) 接着強さ試験 JIS A 9526の6.2.7による。 (6) 透過率試験 JIS A 9526の6.2.8による。 (7) 難燃性の表面加熱試験 JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。 (8) 発熱性試験 建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。									
・断熱材後張り工法 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材の種類 ・厚さ(mm) ・断熱材にせつこうボード等を張り付けたパネル (材質・厚さ・mm)									
・断熱・防露 改修工事 G									
植栽基盤及び材料	[9. 6. 2、3]								
屋上緑化軽量システム	・適用する・適用しない 芝及び地被類の種類等 ※図示 () 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示 ()								
(品質・性能)									
項目		性能							
透気、排水層等構成材の 主要材質		合成樹脂等が耐腐食性及び耐久性のあるものであること。 (保水層を有する場合は、保水層共)							
透水層		目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、堆え込み用土を流出させない構造であること。							
排水層		植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び堆え込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。							
排水層の鉛直方向の排水 性能		240L/m ² ・h以上							
耐荷重性能 排水層の許容圧縮強度		一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。 3×10 ⁴ N/m ² 以上の荷重で破壊・有害な変形がないこと。							
耐根層		重た合わせ部を含め、クマザサ等の地下蔓延根長の強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。							
耐根腐保護層		材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート(絶縁シートも含む)の下に設ける場合は省略することができるものとする。							
(試験方法) (1) 排水基盤の耐荷重性能 (イ) 3×10 ⁴ N/m ² の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み(%)を測定する。(保水層を有する場合は保水層も対象とする。) (ロ) 試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。									
工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法 かん水装置・設置する(種類・ ・) 既存保護層の撤去・行う・行わない 新植した芝及び地被類の枯損後の期間 ※引渡しの日から1年									
[9. 7. 2～5、9]									
・透水性 アスファルト 舗装改修工事 G									
既存舗装の撤去及び再利用 ※図示 ()									
路床 路床の材料									
種別		材料							
・盛土		・A種・B種・C種・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G							
・凍上抑制層		・再生クラッシャーラン G・砂 ・クラッシャーラン・切込み砂利 ・							
・フィルター層		・砂 ・							
(工事名) 環境放射線測定局(尾鷲局ほか7局) 非常用自家発電装置更新工事									
改修特記仕様書(その12)									
青森県 年月									
12 建									

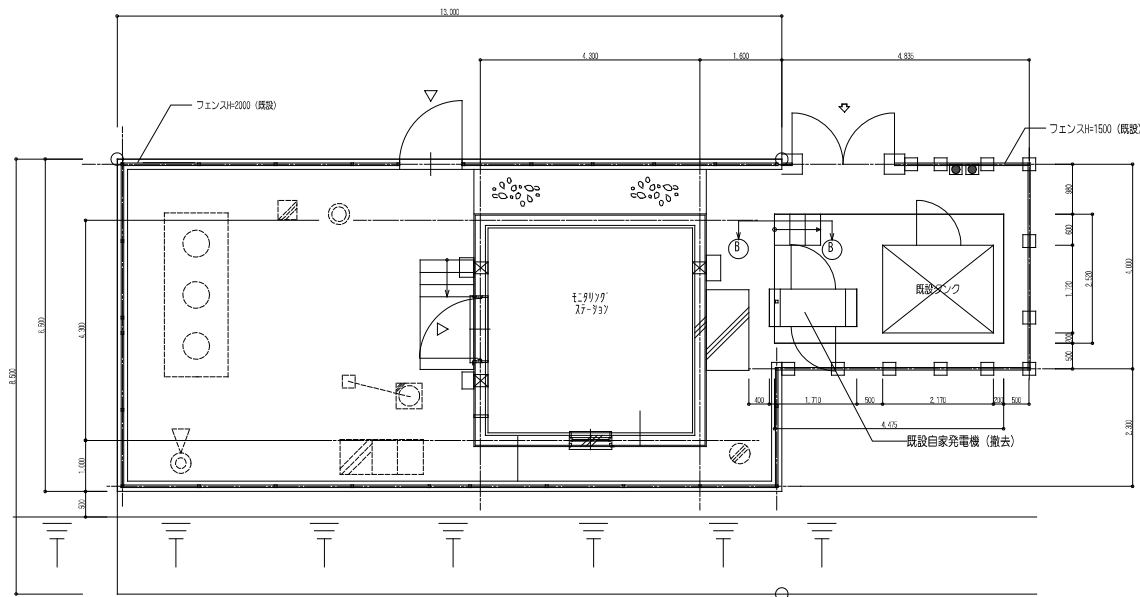


電 気 設 備 工 事 改 修 概 要	
目的：	自家用発電装置の更新を行う。
工事内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既設発電装置の撤去・新設 2. 既設発電装置と既設油タンクの油配管の撤去・新設。 3. 既設発電装置の電源ケーブル・警報ケーブルの撤去 4. 新設発電装置の電源ケーブル・警報ケーブルの新設。 5. 一部既存発電装置基礎の増設。 6. 消火器移設及び新設。 <p>※ 引渡し時はタンクを満タンとすること。</p>



平面図 (改修後) S = 1 : 50

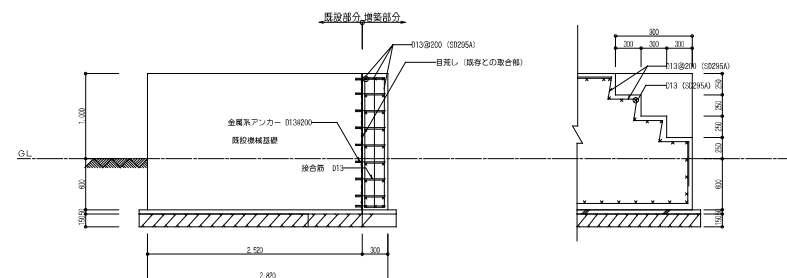
凡 例
 階段増設部分を示す。



平面図 (改修前) S = 1 : 50

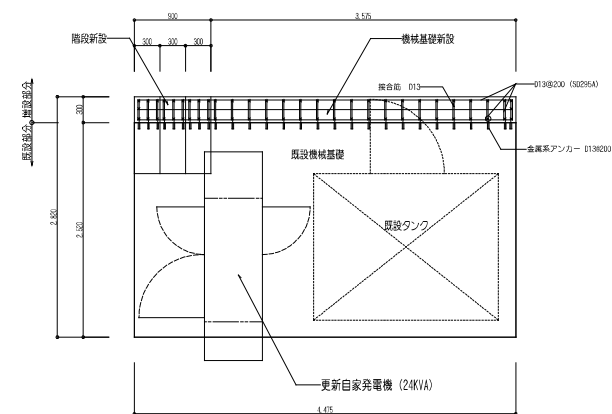
使用材料		
コンクリート	設計標準値 F _{cd}	27N/m ²
鉄筋	スラブ	15φ
	基礎	13φ
	柱	400

※ 基礎部分: 既存躯体部との接合部は、上材をハツリ出しの上目視とする。
 ※ 金属系アンカーの仕様は次の通りとする。
 (1) 埋込深さ 5d以上
 (2) 接合部は金属系アンカーと同様とし、35d以上とする。

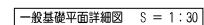
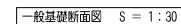
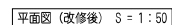


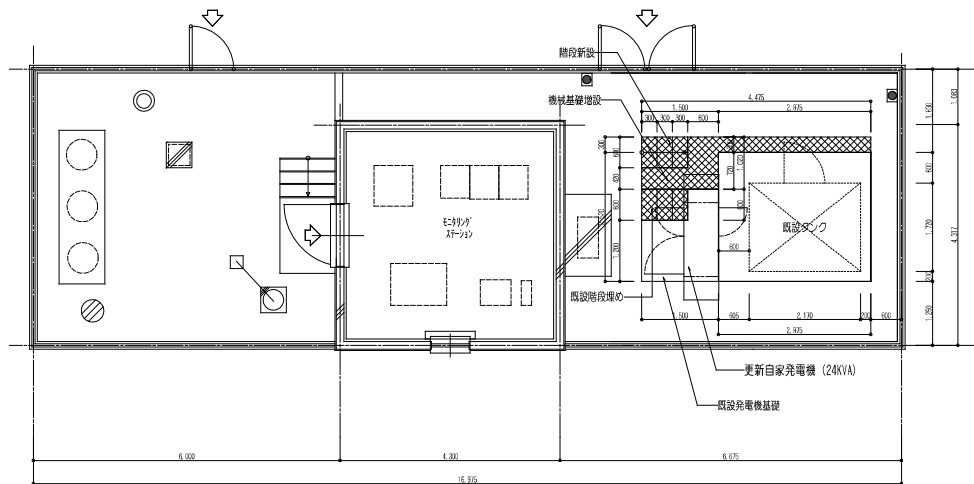
一般基礎断面図 S = 1 : 30

新設階段部分断面図 S = 1 : 30



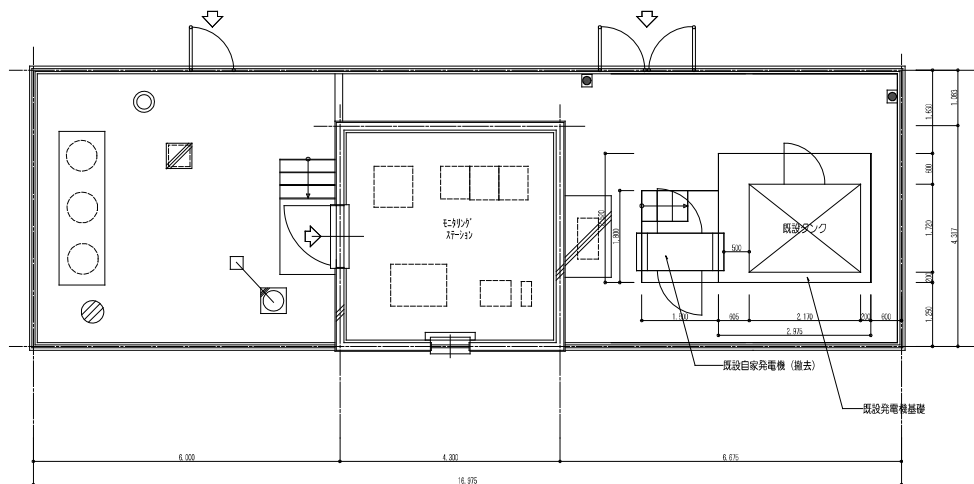
一般基礎平面詳細図 S = 1 : 30



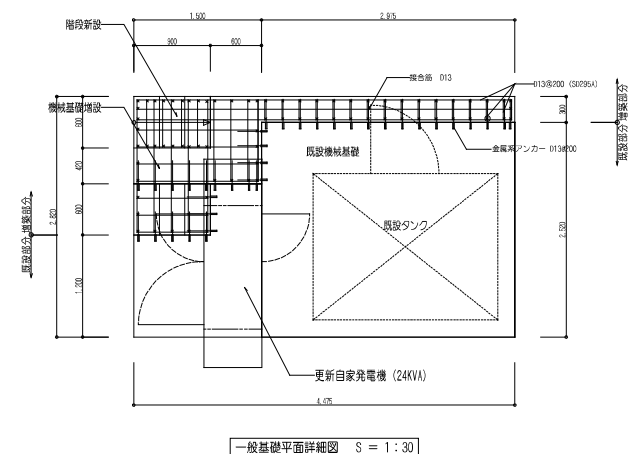
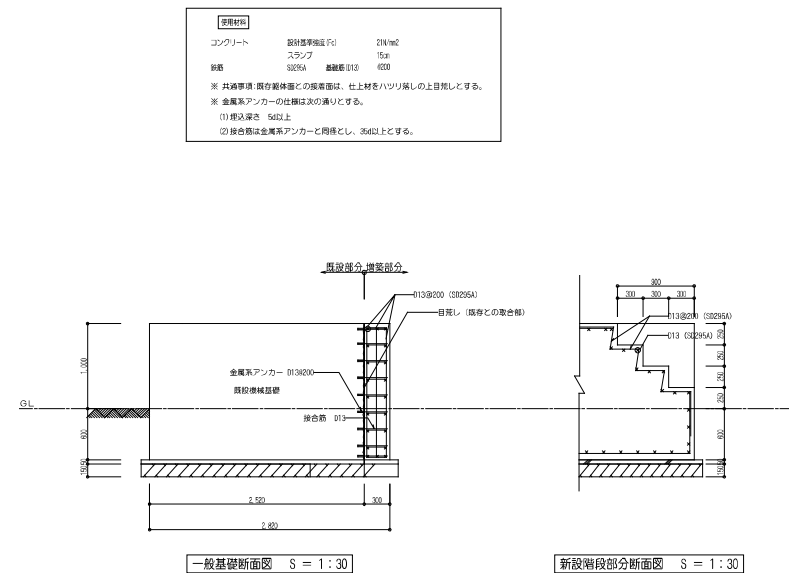


平面図 (改修後) S = 1 : 50

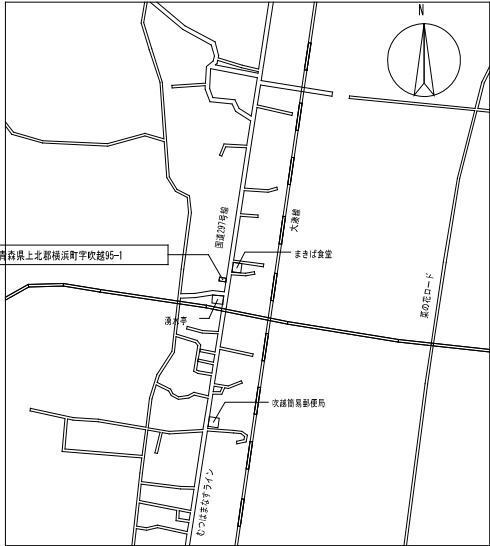
凡 例
 補修増設部分を示す。



平面図 (改修前) S = 1 : 50



一般基礎平面詳細図 S = 1 : 30



見取図

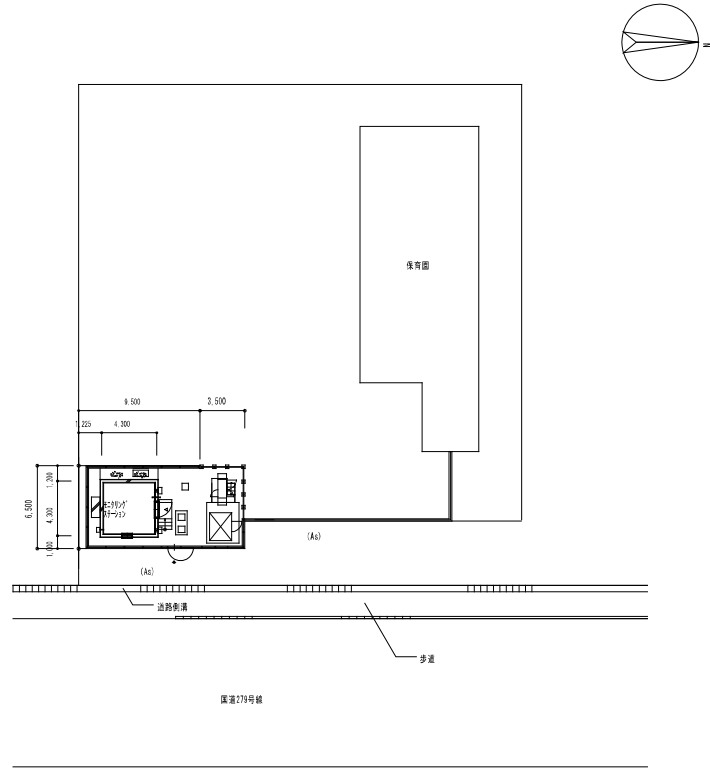
電 気 設 備 工 事 改 修 概 要

目的：自家発電電装置の更新を行う。

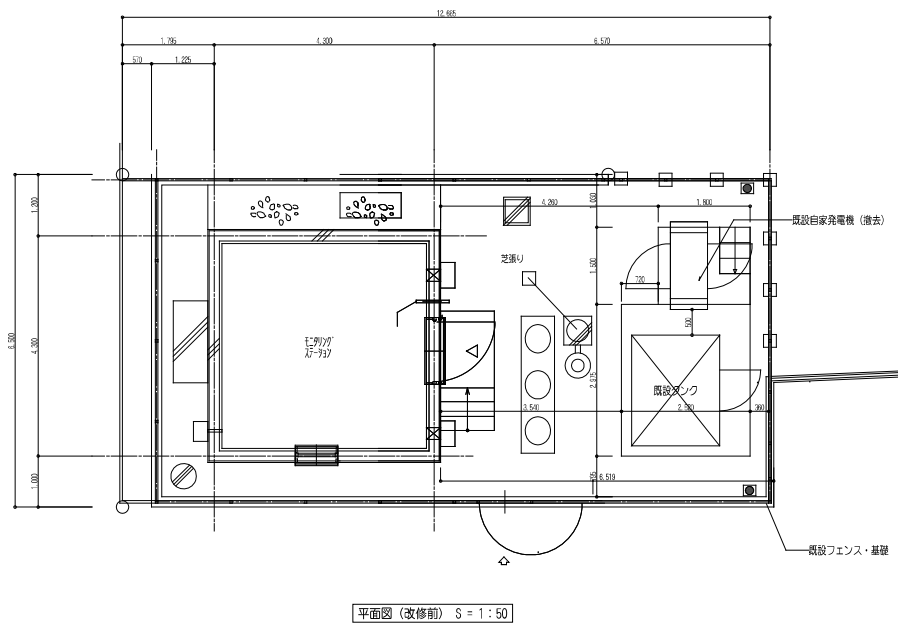
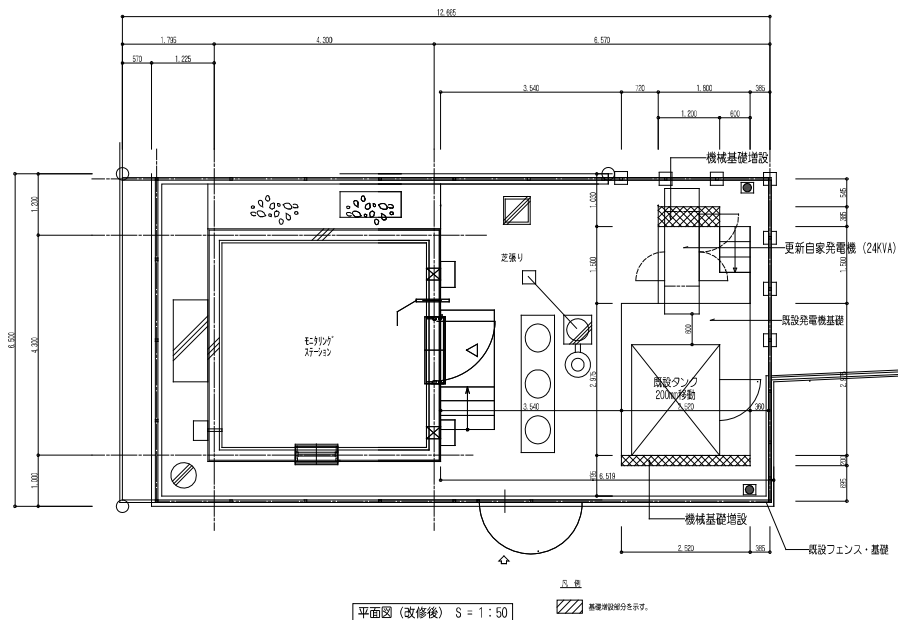
工事内容

1. 既設発電装置の撤去・新設
2. 既設発電装置と既設油タンクの油配管の撤去・新設。
3. 既設発電装置の電源ケーブル・警報ケーブルの撤去
4. 新設発電装置の電源ケーブル・警報ケーブルの新設。
5. 一部既存発電装置基礎の増設。
6. 消火器移設及び新設。

※ 引渡し時はタンクを満タンとすること。



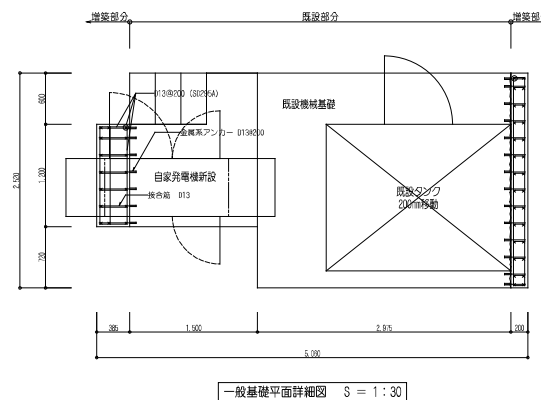
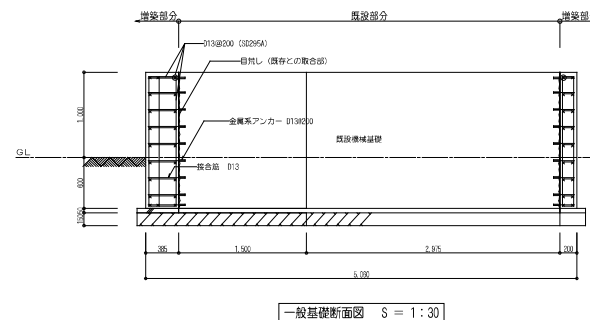
配置図 S=1:200



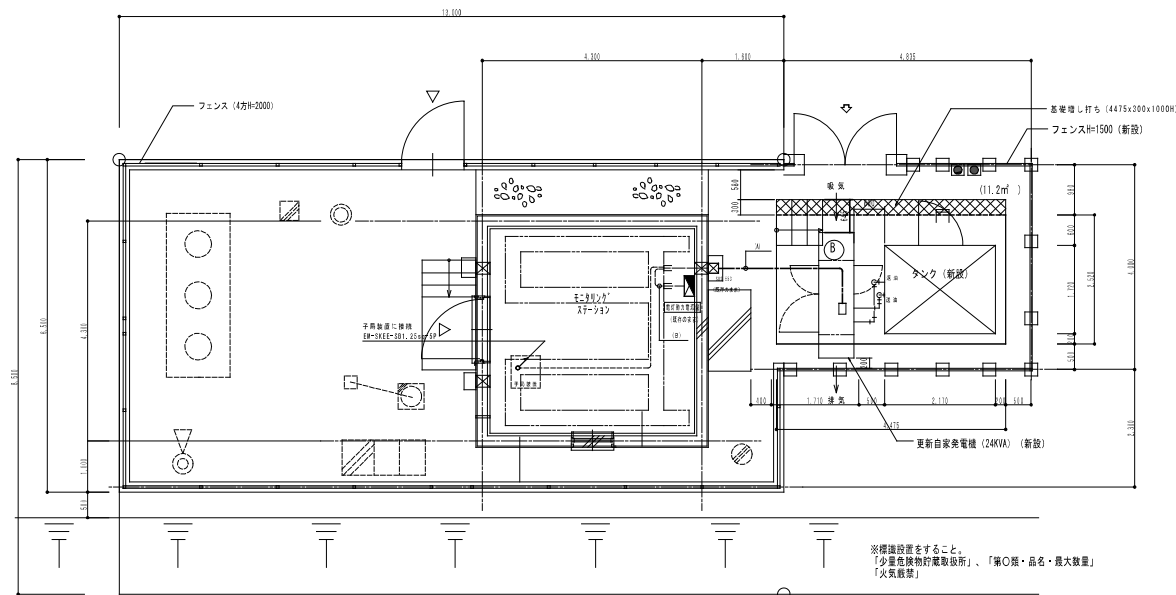
使用材料

コンクリート 設計標準強度 Fc 27N/m²
 スラップ 150
 砂利 S325A 敷設厚 110 400

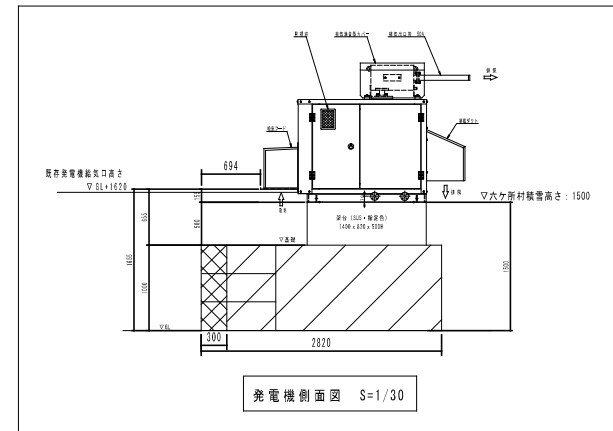
※ 共通事項: 図示範囲外の敷設面は、仕上材をハツリ出しの上目視とする。
 ※ 金属系アンカーの仕様は次の通りとする。
 (1) 埋込深さ S42以上
 (2) 接合部は金属系アンカーと同様とし、S42以上とする。



1/11



平面図 (改修後) S = 1 : 50



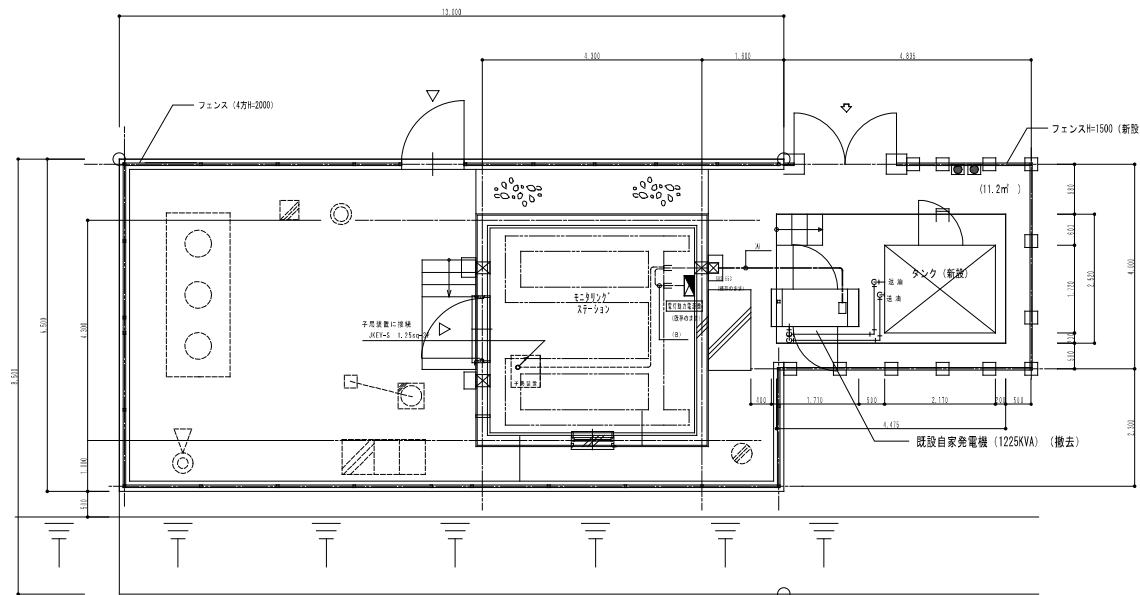
注記: 新設 (ケーブルのみ新設・配管は再使用する)

(A)

発電機 1次側 EM-DE-S224u-3C (FEP50)
発電機 2次側 EM-DE-S224u-3C (FEP50)
発電機 監視 EM-SXEL-081.25sq-2P (FEP30)

(B)

発電機 1次側 EM-DE-S224u-3C (ビット配線)
発電機 2次側 EM-DE-S224u-3C (ビット配線)



平面図 (改修前) S = 1 : 50

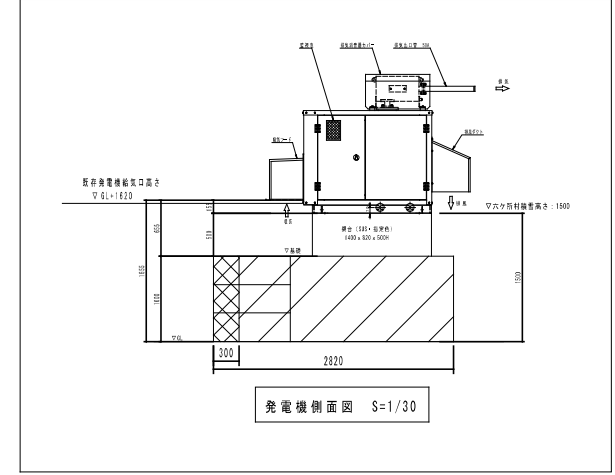
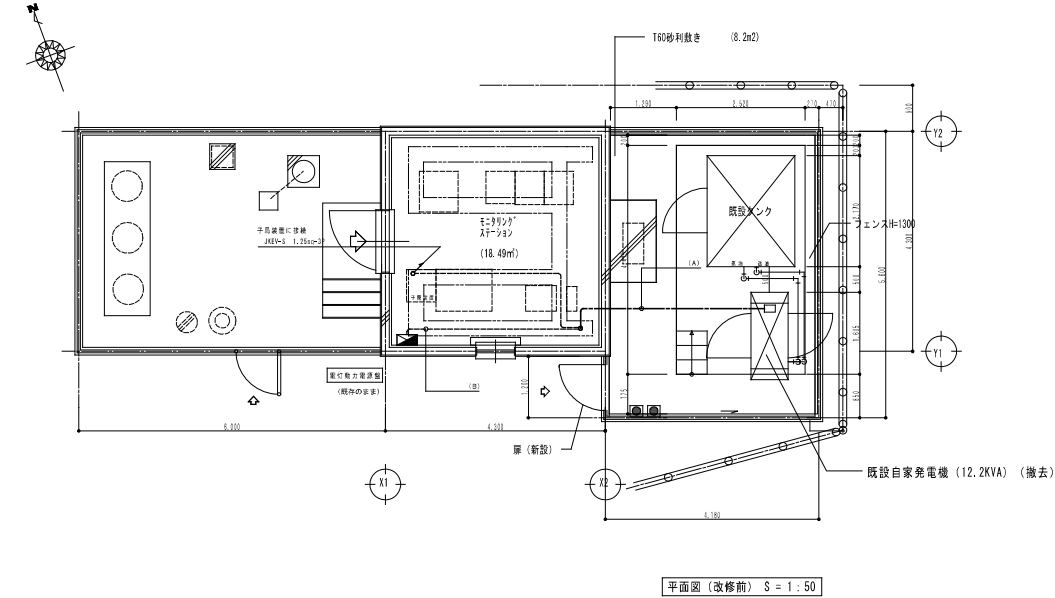
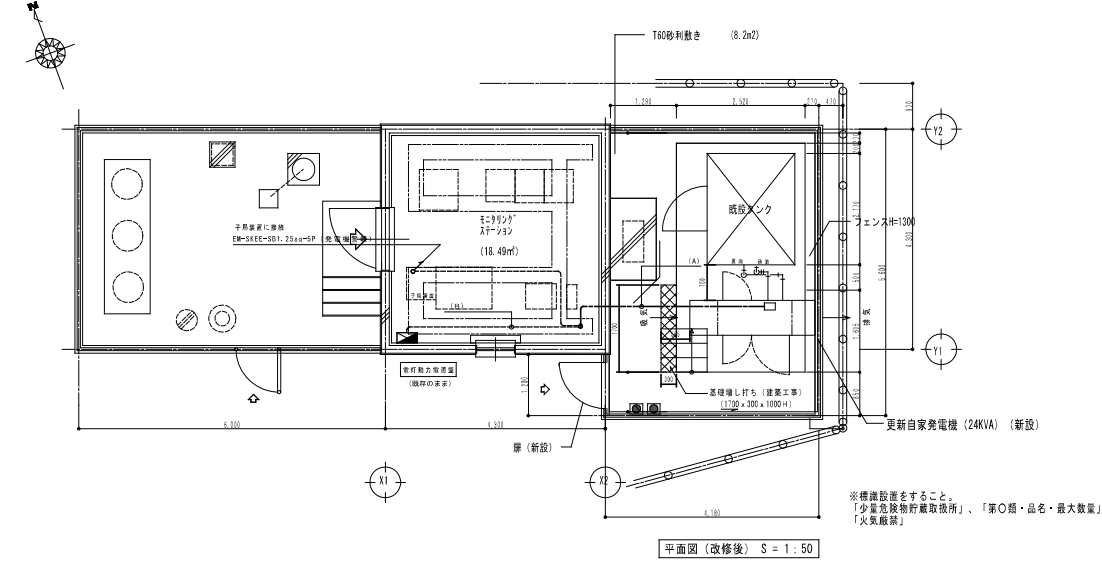
注記: 撤去 (ケーブルのみ撤去・配管は再使用する)

(A)

発電機 1次側 CVT22sq (FEP50)
発電機 2次側 CVT22sq (FEP50)
発電機 監視 JKEY-S 1.25sq-2P (FEP30)

(B)

発電機 1次側 CVT22sq (ビット配線)
発電機 2次側 CVT22sq (ビット配線)



注記：新設（ケーブルのみ新設・配管は再利用する）

(A)

(B)

発電機 1次機 E8-CLE-S22sq-30 (FEP50)
発電機 2次機 E8-CLE-S22sq-30 (FEP50)
発電機 3次機 E8-CLE-S22sq-30 (FEP50)

発電機 1次機 E8-CLE-S22sq-30 (ビット配線)
発電機 2次機 E8-CLE-S22sq-30 (ビット配線)
発電機 3次機 E8-CLE-S22sq-30 (ビット配線)

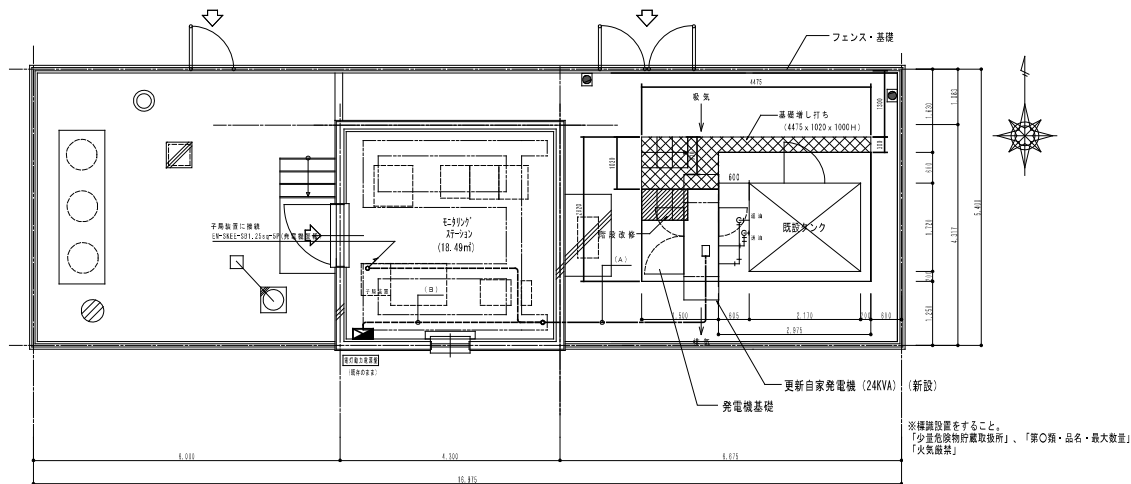
注記：撤去（ケーブルのみ撤去・配管は再利用する）

(A)

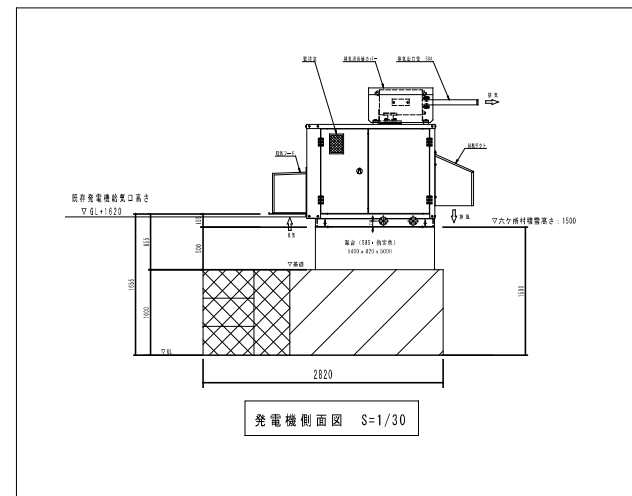
(B)

発電機 1次機 GLT22sq (FEP50)
発電機 2次機 GLT22sq (FEP50)
発電機 3次機 JKEY-S 1.25sq-3P (FEP30)

発電機 1次機 GLT22sq (ビット配線)
発電機 2次機 GLT22sq (ビット配線)
発電機 3次機 GLT22sq (ビット配線)



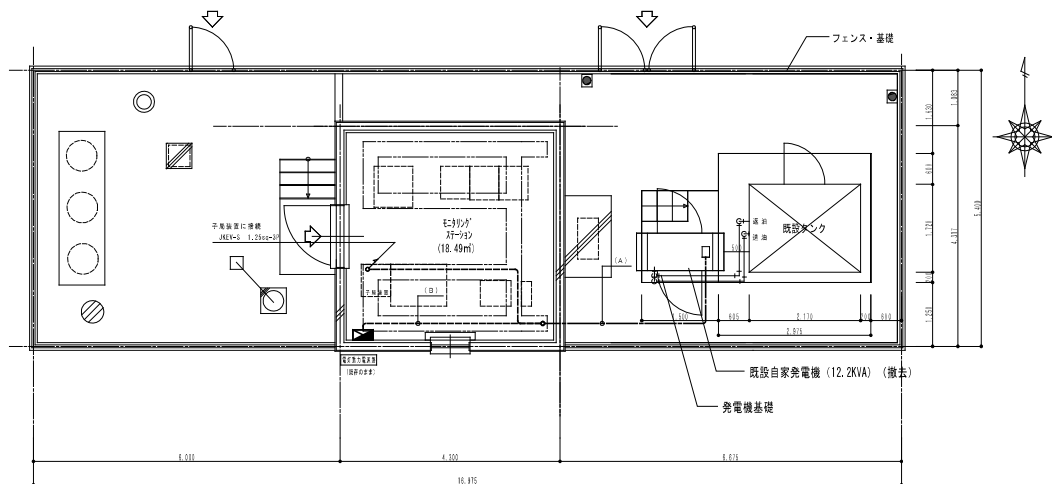
平面図 (改修後) S = 1 : 50



発電機側面図 S=1/30

注記: 新設 (ケーブルのみ新設・配管は再使用する)

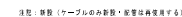
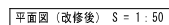
(A)	(B)
発電機 1次側 EP-DE-522sq-30 (FEP50)	発電機 1次側 EP-DE-522sq-30 (ビット配線)
発電機 2次側 EP-DE-522sq-30 (FEP50)	発電機 2次側 EP-DE-522sq-30 (ビット配線)
発電機 制御 EP-SKET-5B1-25sq-5P (FEP30)	



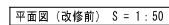
平面図 (改修前) S = 1 : 50

注記: 撤去 (ケーブルのみ撤去・配管は再使用する)

(A)	(B)
発電機 1次側 GET22sq (FEP50)	発電機 1次側 GET22sq (FEP50)
発電機 2次側 GET22sq (FEP50)	発電機 2次側 GET22sq (FEP50)
発電機 制御 JNEV-S 1.25sq-3P (FEP30)	



(A)	(B)
発電機 1 次側 EM-0C-522ag-3C (FEF10)	発電機 1 次側 EM-0C-522ag-3C (ビット配線)
発電機 2 次側 EM-0C-522ag-3C (FEF10)	発電機 2 次側 EM-0C-522ag-3C (ビット配線)
発電機制御 EM-00E(-167, 75ag)-3P (FEF30)	



注記：絶志（ケーブルのみ絶志・配管は再使用する）

(A)	(B)
発電機 1 次側 DWT22ac (FEPS00)	発電機 1 次側 DWT22ac (ビット転換)
発電機 2 次側 DWT22ac (FEPS00)	発電機 2 次側 DWT22ac (ビット転換)
中央制御装置 JKE1-5 1.2500-MP (FEPS00)	